

わたしの羊はわたしの声を聞き分ける

ヨハネによる福音 10:27-30

(そのとき、イエスは言われた。) わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。わたしと父とは一つである。

説教

甘いのと辛いのがあります、どっちにします？ときかれたらわたしは「あまから」でお願いしますと答えます。

わたしの羊には永遠のいのちを与える、とイエスは宣言します。わたしのヒツジは滅びず、奪われることもないのだ、イエスはことばを続けます。

このことばの根拠はなにかといえば、主の復活です。死んだのに生き返ったというイエスの事実がイエスのこのことばを裏付けています。さらにヨハネは福音書のなかでこう問いかけます。

イエスを信じれば「永遠のいのち」信じないと「ただのいのち」あなたならどうする？

ところで、当時の人びとはだれでも神を信じています。ユダヤに住んでいる人々は先祖の神、アブラハムの神を信じています。ローマ地方に住んでいる人々はローマの神、ギリシアに住んで知る人はギリシャの神、ペルシャに住んでいる人々はペルシャの神、それぞれ信じる神は違っていても神を信じるという点では同じです。

でもイエスはただ神を信じているだけでは「永遠のいのち」には届かないと主張しています。イエスの主張はただ神を信じているだけなら×でわたしを

信じるならば〇ということです。

でもこれじゃあカドが立ちます。みんながみんなキリスト教徒ならいいのでしようが、実際にはほかの神を信じる人たちもいるわけですし、ケンカになってしまおうでしょう。そして現実の歴史はケンカ・戦争の歴史でした。

きょうの共同祈願では「多様な価値観を持つ人々が互いに認め合い、尊重できるように導いてください。愛をもって、真の平和を築いていくことができますように」と祈ります。多様な価値観と遠回しにっていますが、「イエス・キリストを信じない、別の神を信じる」価値観を持っている人たちのことを指しています。またイエス・キリストを信じるにしても別の宗派・神学でのキリスト価値観をもっている人びとも含んでいるのでしよう。

ただ甘いだけでなく、そして辛いだけでもないキリスト教、たとえば甘辛キリスト教をいまの世界は欲しています。

わたしたちの主よ、愛をもって真の平和へと導いてください。
